

じんかんう

# 人間に生まれて "つながりを生きよう" 289

## 私たちには使命があります。

今年も八月六日に平和の鐘を撞かせていただきました。

広島に原爆が落とされ一瞬にして多くの方が戦争の犠牲になりました。長崎も、いえ、全世界でも人ととの争いで多くの方々が自らの意志に反していのちを奪われてきました。同じ過去を繰り返してはいけないと広島の小学生は平和への誓いを読み上げました。鐘を撞きながら黙禱し拝聴してきました。いつも此の式典は欠かさず見ておられます。

今年は「本当の別れは、会えなくなることではなく、忘れてしまうこと、私たちは決して忘れてはいけないのです」の言葉を聞き感動しました。このことは、何にでも通じる言葉ではないでしょうか。

大事な方の月命日、  
祥月命日、年忌を勤め  
ましよう。



私は「本当に大事なことは目に見えない」という言葉も大事にしています。一人ひとりの心の様子は目には見えないのでですが、一人ひとりの心に大事にしておられることがあるとおもいます。

お盆は毎年忘ることなく巡ってきます。この私がこの世に生を受けさせて下さった先祖の方々に感謝し、忘れてはならない恩をいただいた事を確かめ合う機会でもあつたのではないでしようか。日頃の忙しさに心まで奪われていますが次の世代にも伝えていく機会になりましたでしようか。

次世代に伝えなければならぬのです。  
**本当の別れは会えなくなることではなく  
忘れてしまうこと**  
**私たちは決して忘れてはいけないのです。**

2021平和への誓い

## 9月真敬寺行事予定

- 1日(水) 正信偈の会 午後1時30分
- 5日(日) 真宗教室 午後2時
- 5日(日) 日曜学校 一泊学習
- 17日(土) 定例聞法会  
法話 国分大慶さん
- 26日(日) 日曜学校 午前9時  
仏具お磨き会 午後1時

## 定例聞法会の聞書

馬川透流(ばがわとおる)さん

南砺市真教寺住職



一条に「和をもつて貴しとし」と書いてあります。

「和」のことを、私たちは普通「わ」と読んでいますが、「やわらかなる」と読んで下さい。東本願寺から出でています「真宗聖典」にも「やわらかなるをもつて」と書いてありますね。やわらかい精神の仏教をもつて日本の国を治めようとした意志を組んで、親鸞聖人が聖徳太子を讃嘆されるときに日本の国のことと和国(わこく)と言つておられます。

聖徳太子のお言葉にもどづいてこの和国と言つておられるのだと思います。聖徳太子は十七条の憲法を作つておられます。仏教の理念を持つて日本をまとめようとされています。その十七条憲法の第

それに比べて、私たち人間の住んでいる世界を穢土と言つてきました。浄土の溶け合う世界に対しても穢土は分断された世界ではないでしょうか?私たち人間の世界は一つに溶け合うことは難しいのです。中々一つになれませんね。

大きなダストボックスで掃除が出来たらこのように穢土とは言わないので、大掃除しても中々綺麗にならないから昔から仏教では穢土と言われているのです。

心のごみがあるのです、

心のごみ?

うらみ(恨み、怨み)

つらみ(辛み)

ねたみ(嫉み)

そねみ(妬み)

ひがみ(僻み)

私たちお寺参りをしていてもこの

五つの心のごみが取れない。

うらみ（怨みとは、相手からひどい仕打ちを受け、機会あらば報復しようとする感情を指す。怨念ともいう。）

つらみ（辛みはつらいという意味なので「怒られたからつらい」という意味になります。）

ねたみ（嫉みとは、羨ましくて憎らしい気持ち、羨望渴望）

そねみ（妬みとは、羨ましくて悔しい気持ち、自己肯定感の低下苦痛）

ひがみ（僻み、ひねくれた考

えや気持ち、意識が内側に向き他人と比べてネガティブに思考する、僻みっぱい人の特徴はプライドが高いのに自己評価が低い、嫉妬心が強い、計算高い、ストレスが多い、感受性が豊か）

聖徳太子も十四条には「怨（うら）み嫉（ねた）むことあること無かれ」と聖徳太子の時代から怨み妬みの心はなくならなかつたのですね。

まさに心のごみ（五つのみ）が中々取れない、分断されている世界を穢土と行つてきたのではないでしようか？

私は聖徳太子はこの穢土におられた方だと思います。それに對してお淨土は一つに溶け合う世界だといわれ、うらみ、つらみ、ねたみ、そねみ、ひがみの世界にで中々一つに溶け合う世界は難しいけれども、そういう私たちの世界に与えようとされているのが一つに溶け合う淨土ではないでしようか？

穢土の世界にいます私たちが

お淨土に生まれさせていただける唯一の手がかりは「南無阿弥陀仏」なんだということはお経に教えて下さるのです。「南無阿弥陀仏」はお淨土と穢土との接点です、それを私たちに与えてくださっているのだと聞いています。

星野富弘さんの絵言葉に「私もあの犯人と同じ事を考えたことがある。それがどんなに悪いことか、今あの人人が教えてくれた」と星野さんは「私も」と仰っています。心のごみから中々卒業できなかつたのではないかと思います。「私も」というところに同じ心がある事を教えて下さいます。

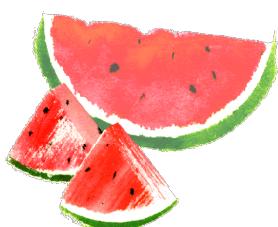
十七条憲法の中に「共にこれ凡夫なり」という言葉がありま

つても共に変わらない心を持つているじやないかと言つておられると思います。

「共に」という世界に、煩惱の濁りまでもが「共に」という世界をいただいていくことでことでお互いが溶け合う世界への材料になつていくのではないかと思います。聖徳太子は「共に」を大事にされたのじやないかと思います。

(和) やわらかさというのは「ああそうだな私にあるな」と言うことが仏法の教え本願の教えからいただいているのではないかと思います。念佛の教えはやわらかさを与えて下さいます。

聖徳太子はこういう「やわらかな」世界を貴ぶ国にしたいのだと、それを親鸞聖人が和國とおっしゃたのではないかと思います。



### 先月の行事から

1日(日)

真宗教室

午後二時

6日(金)

平和の鐘 午前八時十五分

9日(月)

平和の鐘 午前十一時二分

15日(日)

総募参経

平和の鐘 正午

22日(火)

定例聞法会 午前午後

日曜学校 午前9時



せ入れけと植をした。八月上旬から咲  
下りで思え替え見て。最終の花になりま  
さのきいます。今年後、風の中、中、  
い。方はますをし月追まし  
おの。おの。知で株たるお分いに肥

き始めた蓮です。が見  
た。夏の暑い中、中、  
見ている者の心を

発行 〒939-1664 富山県南砺市竹内 440

真宗大谷派(東) 小塙山真敬寺 宮地修

HP QR コード TEL 0763-52-0196 携帯電話 090-3760-5692 メール miyaji@p2.tst.ne.jp

